

2022年7月17日(日)

第3次 長久手市子ども読書活動推進計画策定 のための

第2回ワークショップを開催しました！

テーマ 子どもに読書の楽しみを伝えるためには



中央図書館AVルームで、第2回ワークショップを開催しました。1回目よりも多くの方にご参加いただき、合計3グループで和やかな雰囲気の中、たくさんの意見が交わされました。

図書館職員から図書館の事業紹介と計画策定への流れを説明後、以下のテーマについて考えていただきました。

図書館の楽しさを広めるためには

～子育てをフォローするときに図書館ができることってなんだろう～

A班

就園（3歳まで）の子どもにできること

B班

就学期前後の子どもにできること

C班

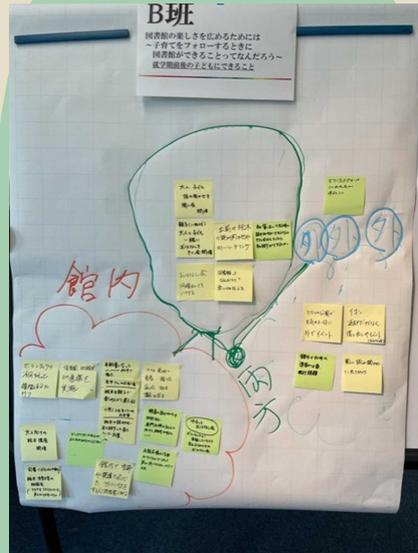
タブレットによる調べ学習時代で本による調べ学習の意義は？
～手間をかける調べ学習は子どもに何を与えるだろう～

各班でのワークショップの様子



本の選び方や絵本の読み聞かせ方など、子どもの読書についてどうしたらいいかわからない保護者の相談に乗れる職員やボランティアの育成、小さい頃から本が身近にある環境を作るために図書館からアプローチすることが大切。

A班



図書館でのおはなし会や図書館講座の他、図書館にあまり行くことがない市民も参加しやすい図書館外でのイベントがあると良い。またボランティア同士の交流、情報交換をすることでお互いの技術を高め、利用者サービスの向上に繋がる。

B班



ネットを使った調べ学習はたくさんある情報から正しい情報を選び出す必要がある。小さいときから本が身近にある環境があれば、自然と本を使った調べ学習をする。活字を読むことで物事を組み立て判断する力を養うことができる。

C班

本の読み聞かせ方法やどんな本を選べばいいかわからない親のために子育て支援の側面から、親も育つことが大切です。また、小さいときから活字を読むことで物事を組み立てたり、考えたりする力を徐々に養うことができるため、家族で本をゆっくり読む時間が必要です。そのため、本のコミュニティとなっている図書館は重要な子育て支援の場となっています。



ファシリテーター

愛知淑徳大学 福祉貢献学部

青木 文美 先生

